

専門的アーカイブの拡充（資料閲覧室運営）（③企07-14-4/5）

目 的

文化財関連資料の公開機関としての周知の広がりをつまみ、①受け入れた文化財関連の図書などの文字資料や、作成したアナログ・デジタル画像資料の登録管理、②閲覧室で一般利用者を対象とした週3回（月・水・金）の所蔵資料の提供、③データベースの作成、検索システムの構築並びにウェブサイト上での諸情報の提供を通常業務とするとともに、提供する資料や情報の質に主眼を置き、より専門性の高い文化財関連資料や情報の収集・構築・公開の場として専門的アーカイブの充実を図る。

成 果

資料閲覧室の運営

1. 資料閲覧室の公開運営を行った（合計139日、利用者数のべ1,015人）。
2. 資料の登録と情報のデータベース化を行い、それを利用した外部公開用SQLデータの更新・運用を行った。
3. 貴重書のデジタル化を進めた。
4. 情報を外部公開データベースに登録し、基礎情報を一般に提供した。
5. セインズベリー日本藝術研究所（SISJAC）との「日本芸術研究の基盤形成のため事業」を継続し、VPN回線を通じて東京文化研究所刊行物アーカイブシステムに、SISJACが収集した欧米圏の日本美術関連情報の入力を開始し、713件の外部公開を行った。
6. 2014（平成26）年10月には皿井主任研究員がSISJACに赴き、システム及びデータ収集に関する協議を行い、あわせてSISJACの要請により、平安時代彫刻史に関する講演を行った。
7. 地方公共団体が刊行する文化財関連報告書のうち、東北地方及び関東地方の情報収集を終えた。
8. 田中室長及び橘川アソシエイトフェローが実行委員として、JALプロジェクト（委員長：加茂川幸夫東京国立近代美術館長）に参加し、招へい者の事前ヒアリング・研修における各種ガイダンス及び随行など、海外の美術資料専門家との交流・情報交換を行った。
9. 前年度運用を開始した「文化財関係文献データベース（統合試行版）」に、情報を追加し、東京文化財研究所定期刊行物のうち『保存科学』『無形文化遺産研究報告』のPDFの検索・閲覧が可能になった。
10. 資料受入数：和漢書2,459件、洋書18件、展覧会図録・報告書等4,621件、雑誌3,279件（合計10,388件）

企画情報部にて作成・更新中のデータベース

内部運用しているデータベースは、所蔵する写真資料、撮影調査票ほか多岐にわたっている。インターネットで公開しているデータベースには次のようなものがあり、これらは横断的に検索することが可能になっている。

- | | | |
|-------------|----------------|------------------|
| 1) 美術関係図書 | 5) 展覧会カタログ | 9) 画廊資料 |
| 2) 伝統芸能関係図書 | 6) 和雑誌 | 10) 文化財関係文献 |
| 3) 保存修復関係図書 | 7) 写真原板 | 11) 近現代美術展覧会開催情報 |
| 4) 売立目録 | 8) 美術家・美術関係者資料 | 12) 伝統楽器情報 |

研究組織

○田中淳、山梨絵美子、二神葉子、小林公治、津田徹英、塩谷純、小林達朗、皿井舞、安永拓世、城野誠治、橘川英規、福永八朗、河合大介（以上、企画情報部）、飯島満*（無形文化遺産部）、佐野千絵*（保存修復科学センター）、吉田千鶴子（客員研究員）

*企画情報部併任